

COCニュースレター

新座市をキャンパスに！✦(プラス)となる人づくり、街づくり

<No. 9>平成29年2月9日発行
十文字学園女子大学 地域連携推進機構
(COCセンター)

開催
報告

COC 事業シンポジウム「地域を学ぶ 地域で学ぶ 地域に活かす」

12月4日(日)、COC 事業シンポジウム「地域を学ぶ 地域で学ぶ 地域に活かす」が、本学 431 教室で開催されました。新座市をはじめ近隣市の方、他大学の COC 関係職員、行政関係者、本学の教職員ら約 81 人が参加しました。

はじめに、横須賀学長が地域と結びつく大学としての役割について、基調講演を行いました。続く教員・学生による事例発表では、6 グループがスライドを用いながら、これまでの地域での活動を報告しました(=写真)。その後は本学教員、学生、地域の方によるパネルディスカッションを行い、学生の地域活動について意見を交わしました。



横須賀学長による基調講演「十文字 COC
～新座市をキャンパスにした学びから～」



↑大学マスコットキャラクター
“プラスちゃん”を通じた地域活性化



↑地域の児童や高齢者への“食育”
によって生まれた管理栄養士の卵たち



←フシギマップで学生は成長する



ゾウキリンくらの地域連携活動 →
～HUG ネットとの連携を中心として～



パネルディスカッション「『地域』とつながる『学び』
～その成果と課題を考える～」には地域の方も参加
(右列・右) 秋山佳男氏 (イオンリテール(株)北関東新潟
カンパニー埼玉事業部新座店長)
(同・中) 高橋靖子氏 (新座市町内会連合会会長)
(同・左) 渡辺哲也氏 (新座市教育委員会教育総務部副部長)



←クラブ活動
“和太鼓”を通じた
地域貢献



自主社会活動を通じた →
地域貢献 (さつまいもプロ
ジェクト、ダンスパフォー
マンス、ココフレンド)

HUG ネットが樹木マップを作製

「ふるさとの緑と野火止用水を育む会 (HUG ネット)」が、新座市の野火止用水沿いにある樹木の名前を記した樹木マップを作製し、市に 1,000 部を寄贈しました。HUG ネットは、野火止用水の保全に関わる市民団体や行政に本学が連携を呼びかけ、平成 26 年度に発足したネットワークです。

マップには、HUG ネットが独自に実施した樹木の植生調査をもとに、53 種 441 本の樹木の名前や位置をカラー写真も交えて分かりやすく紹介。新座市観光プラザや市内公共施設で配布しています。



地域連携活動

留学生の合唱団が老人ホームで交流

メディアコミュニケーション学科の留学生による合唱グループ「虞美人」が、11月20日(日)、新座市内の老人ホーム「サニーライフ新座」を訪問しました。「赤とんぼ」「大きな古時計」を日本語で、「愛は世界に満ち溢れ」を中国語と手話で披露した他、地図を使って出身地を説明するなど利用者との交流を楽しみました。留学生は「最初は緊張したけれど、話しているうちに自分たちの祖父母と同じだなと思い、楽しくお話ができました」と感想を話していました。

COC 事業に係る新座市との意見交換会を開催

10月27日(木)、新座市との意見交換会を本学で開催しました。新座市からは、7月に市長に就任した並木傑市長をはじめ職員11人、本学からは横須賀学長をはじめCOC事業に関係する教職員12人が出席しました。学長からは地域活動を通じた学生の成長への期待を、また市長からは、COC事業を通じた市と大学との連携活動について感謝が述べられました。

会議では、新座市から「新座市地方創生総合戦略」の概要と本学とのマッチングの進行状況や課題について報告があり、本学からも連携事業全般の現状と課題等について説明しました。その後、今後の連携の進め方等について意見交換を行いました。

また、11月24日(木)には第2回+(プラス)キャンパス連絡会議が開催され、総合戦略の「子育て」「教育」施策について、意見交換を行いました。



意見交換会で挨拶をする並木市長(中央)

食物栄養学科の学生がレシピコンテストで優秀賞を受賞

第20回日本病態栄養学会年次学術集会における「糖尿病のための500kcalオリジナル弁当」のレシピコンテストで、食物栄養学科3年生のチーム(臨床栄養学研究室(和田安代研究室))が、出場した12チームの中で一番となる優秀賞を受賞しました。学生はレシピ開発後も書類審査や実技審査などの長期戦に取り組み、今回のすばらしい結果をおさめました。

新座の食材を使ったお弁当が優秀賞に



COC研究プロジェクト pick up 地域志向教育研究の取り組みを紹介します

地域との連携活動を通じた地場野菜の有効活用

- ◇代表者：小林三智子(食物栄養学科 教授)
- ◇プロジェクト構成員：曾矢麻理子、石井和美、須田有実子(以上同学科助手)、食物栄養学科3・4年生、JAあさか野、新座市

新座の野菜で盛り上げよう！

新座市は農業が盛んな地域。そこに着目し、地元の野菜を使った食品の開発を学生と共に進めています。野菜の用途を広げると共に、食品販売を通じて地域活性化に繋げることが目的です。

昨年度から継続して取り組む“にんじんドレッシング”は、学生が栄養価や油の配分、色味等にも気を配って開発から取り組みました。原材料のにんじんも、新座市内にある農園の協力を得て学生が種まきから行い、収穫したものを使用。外部の方へのプレゼンや試作・改良を重ね、商品の完成までもうすぐです。ほかにも、収穫した野菜を使ったスイーツ(桐華祭でおなじみ!)を新座市のイベントで毎年販売しています。

学生にとっても、管理栄養士になる上で必要な知識やコミュニケーション能力を育む体験となっています。



子ども元気プロジェクト2016

- ◇代表者：鈴木康弘(幼児教育学科 准教授)
- ◇プロジェクト構成員：宮野周(同学科准教授)、藪崎伸一郎(同学科講師)、竹迫久美子(十文字女子大附属幼稚園 教諭)

地域がつながり、子どもを育てる

子育てを軸に地域住民の繋がりを作り、地域が主体となって子育てを行う。そんなまちづくりの研究の第一歩として、子どもと保護者、地域の方が参加する様々なプロジェクトを企画しています。

桐華祭で子どもが遊ぶ場を提供するほか、地域で活躍する“忍者アスリート”を招き子どもと共に走る動きを楽しみながらそのポイントを伝えてもらったり、運動・造形・音楽の各分野を組み合わせたプロジェクト等も行っています。

遊びの内容は学生が授業で学んだことを活かして考え、子どもと触れ合った後は振り返りを行い、次の活動につなげています。また活動を通して、学生は保護者の子どもへの接し方から多くのことを学んでいるようです。

今後は地域の方との繋がりをいっそう深めつつ、大学・行政・市民が連携したプロジェクトを計画していきます。



地域連携活動報告

- 11/6 志木駅南口商店会青年部の第11回「チャリティー屋台村」にプラスちゃんくらぶが参加
- 11/7 「第1回ほっとカフェ@十文字」(オレンジカフェ)開催
- 11/12 「親子DEミニウォーキング&スタンプラリー」に健康栄養学科の学生が参加
- 11/13 新座市国際交流協会の「国際交流デー」で吹奏楽部が演奏
- 11/20 メディアコミュニケーション学科留学生在が老人ホーム「サニーライフ新座」を訪問
- 11/23 「野火止水水ご当地グルメ・ゆるキャラ®フェスティバル」にプラスちゃんが出演
- 11/24 第2回「+(プラス)キャンパス連絡会議」開催

- 12/4 COC事業シンポジウムを開催
- 12/23・24・26 子どもの冒険遊び場「プレプラ」を十文字の森で開催
- 1/15 「埼玉クイズ王決定戦」に学生と教職員チームが参加
- 1/24 ふるさと新座館ピアノ体験事業を新座市教育委員会と共催
- 1/26 第3回「+(プラス)キャンパス連絡会議」開催
- 2/3 「第2回ほっとカフェ@十文字」(オレンジカフェ)開催
- 2/4 ふるさと新座商店会・本学共催の第3回チャリティーもちつき大会を開催

【今後の地域連携活動】

- 2/25 平成28年度「地域連携共同研究所報告会」開催
- 2/25・26 新座市男女共生フォーラム「プラザまつり」にプラスカフェを出店、プラスちゃんくらぶが参加



12月に開催されたCOC事業シンポジウムでは、学生による発表を初めて行いました。参加された方からは「学生が生き生きと活動している様子が伝わり、刺激になった」「今後も学生のさらなる成長を望んでいる」などのご感想やご意見をいただきました。それらのお声をもとに、今後も事業に取り組んでいきます。(編集部)